

# モンゴル国からの活動報告 5 「モンゴル国の助産師のコンピテンシー」の改訂に向けた活動

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

## はじめに

私は、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センター国際医療協力局からモンゴル国に派遣されています。2021年11年に助産師の卒後研修強化に向けた活動が承認され、モンゴル国の保健省、保健開発センター、助産師とその関係者と活動を進めています。今回は、助産師の専門研修や新人助産師の研修等のカリキュラム開発の根幹となる「モンゴル国の助産師のコンピテンシー」の改訂に向けた活動についてご報告させていただきます。

## 1. 背景

近年、保健医療の分野では、様々な職種や専門に細分化された領域のコンピテンシーが創出され、そのコンピテンシーに基づいた卒前・卒後教育が実施されるようになってきています。コンピテンシー（competency）とは、領域によって様々な見解があるようですが、世界保健機関（2022）によれば「与えられたコンテキストの中でタスクを実行するために知識、スキル、態度などを統合した能力」とされています。シンプルなようで、とても奥が深いです。モンゴル国の「助産師のコンピテンシー」を考えようとすると、当たり前のことですが、そもそも「モンゴル国の助産師とは」「助産師の役割や求められることは何か」「モンゴル国の保健医療などの全体の中での助産師の位置づけ、未来に期待される姿」「モンゴルの国民が助産師に望むこと、ニーズは何か」など、専門職としての根幹を明確にすることになります。しかも、コンピテンシーは、時代の

変化や国民のニーズ、科学的根拠のアップデート等により変化していくものです。

モンゴル国の助産師のコアコンピテンシーは、2014年から数年かけモンゴル医科大学の教員らが中心となり、初版を開発しています。臨床コアコンピテンシーとして8つのグループと、医療従事者に求められる6つの一般的コアコンピテンシーから構成されています。最近では、国際助産師連盟の意見等もあり、改定が必要であると考えられていました。

また、国際的にもコンピテンシーに基づいた教育が求められています。2021年5月、第74回世界保健総会では、Global Strategic Directions for nursing and midwifery 2021-2025（世界保健機関、2021）が採択されました。これは、看護・助産の2021年から2025年の方向性を示した重要な国際的な文書で、「教育」「雇用」「リーダーシップ」「サービス提供」の4つの政策の重要分野で構成されています。そのうちの「教育」における優先的な政策のひとつに「教育プログラムは、コンピテンシーに基づいた、質が担保された効果的な学習デザインとし、かつ人々の健康ニーズに沿えるように設計する」とあげられています。モンゴル国の活動においても、本書の国際的な方向性に沿い「助産師のコンピテンシー」を明確にし、コンピテンシーに基づいたカリキュラムを開発、実施、評価する予定です。

## 2. 主要な関係者との会議

主要な関係者は、国立母子保健センターや産科病院の助産師、モンゴル助産師会の助産師、モンゴル医科大学の教員等です。会議は、1～2週間おきに開催し、コンピテンシーの改訂をはじめ、指導者養成研修の開発、専門研修のカリキュラムの開発等を進めています（写真1）。



(写真1) 主要な関係者との会議

### 3. 「国際助産師の日」におけるイベントでのワークショップ

毎年5月5日は、「国際助産師の日」です。2022年5月5日に「国際助産師の日」を記念し、モンゴル国保健省、モンゴル助産師会、国際助産師連盟、UNFPA、JICAプロジェクトが共催で「助産師の100年の歴史～助産師は何を望んでいるか～」というイベントを開催しました。開会式では、Enkhbold保健大臣、Franka国際助産師連盟会長、Davaasurenモンゴル助産師会長らが挨拶され、助産師によるモンゴル国の母子保健や近年の新型コロナウイルス感染症への対応等に感謝が述べられました。

イベントの後半では、JICAプロジェクトがモンゴル医科大学、モンゴル助産師会らと「助産師のコンピテンシーの改訂に向けたワークショップ」を実施しました。会場では、国立第1～2母子保健センター、第1～3産科病院、地区病院、私立病院、地方の県病院等の約50名の助産師が参加しました。また、約30名の助産師のオンライン参加もありました。ワークショップでは、国際助産師連盟、モンゴル国、日本の助産師のコンピテンシーを紹介しました。そして、モンゴル医科大学のOyunbileg氏が助産師の主要な関係者と検討してきた「モンゴル国の助産師のコンピテンシーの改定案」として「妊娠期のケア」「分娩期および産褥期のケア」「公衆衛生のケア」等の7つのコンピテンシーを提案しました。その後、会場では「モンゴルの理想の助産師像」「助産師のコンピテンシーの改訂案」についてのグルー

プワーク（写真2）と全体への発表が行われました。

ワークショップでは、現場の助産師らが「子どもや思春期に対する保健教育」「家族計画」をコンピテンシーに入れる必要があると話されていました。これらは、女性、子ども、家族の人生を豊かにする大切な教育です。助産師の職務の専門性とその責任、誇りを感じるやりとりが続きました。今後、これらの貴重な意見とワークショップに参加していない助産師にもアンケートを実施し、コンピテンシーの改訂に活かしていきたいと思います。



(写真2) 「国際助産師の日」のグループワークの様子

### おわりに

モンゴル国に赴任し、1年が過ぎました。助産師をはじめとした多くの方々とよく話し、ともに課題や未来を見据えてきました。常に関係者のそばにすることができるので、母子や助産師を想う気持ち、喜び、苦しさまでも共有しているように思います。今後も、これらの現場の声を大切に、助産師の卒後研修の国の体制作りを進めて参りたいと思います。

最後になりましたが、ともに活動している皆様および日本からご支援ご指導いただいている皆様に深く感謝申し上げます。

### 【参考文献】

World Health Organization, Global Competency and Outcomes Framework for Universal Health Coverage, 2022.

World Health Organization, Global Strategic Directions for nursing and midwifery 2021-2025, 2021.